

スタートカリキュラムから1か月

1年生の授業研究会

～架け橋期の指導を考える～



- ・「考えないスイッチ」が入らないようにする
- ・子どもたちの興味・関心、わくわく感を大切にする
- ・子どもにきく
- ・「手応え感覚」を大切にする



カリキュラム・マネジメント



- ・子どもの実態に合わせて 内容を変える
例: お話しよう→ 自己紹介ゲーム
- ・山の登り方はちがっていい 例: 学校探検
- ・環境構成 例: 読み聞かせの場所、流れ

令和4年5月10日
横浜市立恩田小学校

学校づくりのビジョン

「子どもを育てる」学校から 「子どもが育つ」学校に

子どもたちが安心して自己発揮できる学校を
教職員、家庭、地域の方、みんなで創って
いきたい。

一人ひとりの子どもを徹底的に大切にし、教
職員が子どもたちの伴走者になりたい。

「この人に伴走してもらいたい」と思って
もらえるような教職員でありたいと思います。



手応え感覚(ポジティブ感情)

～田村 学先生の講演から～

・価値ある体験を通して

⇒気づき・手応え感覚

①**充実感**「すがすがしい」「気持ちいい」などの言葉にならない満たされた感覚、②～④を支える

②**達成感**「なるほど」「わかった」「できた」「できそうだ」などを支える感覚

③**自己有能感**「少しは成長したかな」「前よりもうまういったぞ」などと自己の成長を実感する感覚

④**一体感**「一緒によかった」「みんながいたから」「みんなでやると楽しい」などの協同的に学ぶ価値を実感する感覚

⇒次への行動の意欲

何度も経験することで安定する ⇒ 態度

学びに向かう力

全校で1年生の育ちを支援する

スタートカリキュラムミニ研修会（4月）昨年度の探検の様子から子どもたちへのかかわり方を学びました。



スタートカリキュラム研修会（昨年5月）スタートカリキュラムの実態を知っていただくために、ナザレ幼稚園の教務主任野崎先生も一緒に研修に参加していただきました。



スタートカリキュラムは、1年生に関わる先生だけでなく、学校全体で取り組むことの大切さ、また、スタートカリキュラムの理念は、6年間を通して活用していくことの大切さを学びました。

スタートカリキュラムの意義を 園や保護者に伝える



就学時健診にて校長がスタートカリキュラムについて説明しました。（11月）

本日の講師

國學院大學

教授

田村 学先生

准教授

吉永 安里先生



よろしくお願ひします

★資料について

- ・ 単元配列表、週案などは、
恩田小学校ホームページ
スタートカリキュラムに掲載
されています。

